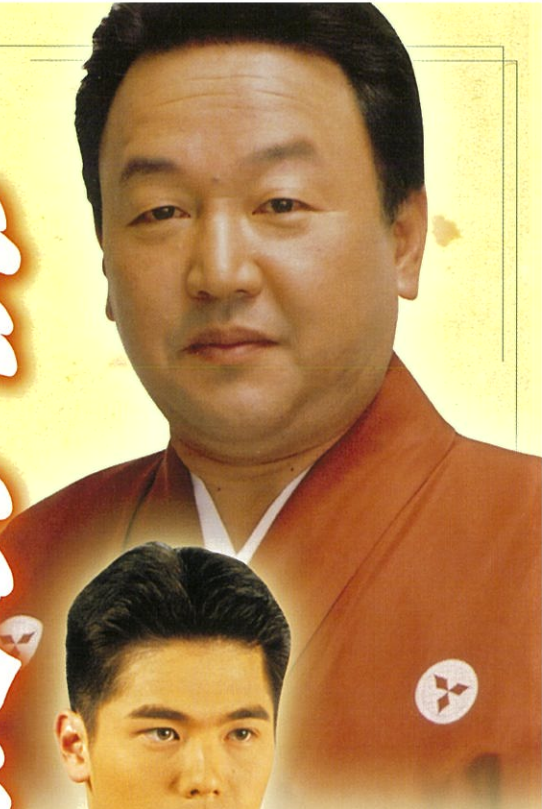


幸枝若 山圓嬢

ダブル師弟競演会



京山小圓嬢



京山幸枝若



菊地まどか



幸いってん

2006
9/30【土】

15:00開演 (14:30開場)

茨木市市民総合センター
クリエイティブセンター・センターホール

茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726

全席指定席

1階席=2,500円 / 2階席=2,000円

*65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き
*就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

7月5日(水)発売

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団072-625-3055

(茨木市市民会館ユーアイホール1階 8:45~17:15 無休)

◆その他の販売所

JA茨木市各店舗 072-627-7762(本所総務課)

フミレコード阪急茨木市駅前店 072-626-3723

朝日野村北摂販売株072-643-8424

電子チケットぴあ 0570-02-9999

電子チケットぴあPコード予約 0570-02-9966(Pコード 370-088)

ローソンチケット 0570-000-777

ローソンチケットLコード予約 0570-084-005(Lコード 51903)

*ぴあ、ローソンでは割引の取扱いはありません。

◆主催: (財)茨木市文化振興財団 ◆制作: 三栄企画 ◆構成: 相羽秋夫

「寛政力士伝より
「雷電と八角」
「義士銘々伝より
「赤垣源藏徳利の別れ」
春野百合子直伝
「阿波の踊り子」
左甚五郎シリーズより
「掛川の宿」

中入

解説

相羽秋夫
幸いってん
京山小圓嬢
菊地まどか
京山幸枝若

最高の顔ぶれが演目で賜る浪曲フェスティバル



相羽秋夫 (演芸評論家 大阪芸術大学教授)

浪曲は、大正の初め頃までは「浪花節」と呼ばれていた。一八二七年、江戸文化期に、浪花伊助が、ストーリー性のある語り物として世に問うたので、その人物の姓を取って「浪花節」と言ったのである。

もともとは、江戸期以前に流行していた、チヨカレ、チヨボクレ、デロン祭文、浮かれ節といった節に、説教師、阿保陀羅経、音頭、警女の口説、阿波浄瑠璃、春駒節などが加わって、「浪花節」の原点が出来上がった。明治四十年頃、有名な桃中軒雲右衛門や、初代吉田奈良丸、初代京山小田が登壇して、第一期の黄金期を築く。

政府の富国強兵策や欧米の音楽が入ってきたことにより、第二次世界大戦後は、娯楽の王座を明け渡すが、落語や講談よりも戦前までは世間に受け入れられていた。

現在も、浪曲は根強い人気を得ているし、新しい演し手が台頭して、輝かしい命脈を保っている。

当公演は、そうした現代の浪曲界を代表する、二代目京山小田嬢と二代目京山幸枝若を軸に、それぞれの弟子も顔を揃えた競演会である。

初めて浪曲に接する方も、日本人の琴線に触れる心地良いリズムに、初秋のひとときをうつりされるに違いない。

その魅力の顔ぶれを、紹介したい。まず二代目京山小田嬢である。

一九三二(昭和六)年、大阪府の生まれ。叔父の三代目京山小田に入門して、小福の名でデビューする。その後、菊地容子と改名し、浪曲と歌手の二足のわらじをはく。

一九七二(昭和四六)年に、二代目小田嬢を襲名して現在に至っている。

普通、浪曲の伴奏は三味線であるが、主人存命中は、主人の奏するメロディーで語った。

哀切たつぷりの声質は、ギターの色色にぴったり合い、舞台の効果を高めた。

現在は再び三味線の曲師、浪曲の伴奏者を「う呼ぶ」を使っているが、いささかも衰えない艶やかな声はさすがである。

外題(タイトル)の「赤垣源蔵徳利の別れ」は、「義士

銘々伝」と言って、四十七士の一人一人を主人公にしたシリーズの一作で、小田嬢の十八番の一つである。

二代目京山幸枝若は、一九五四(昭和二九)年、兵庫県の生まれである。

ご存知初代京山幸枝若の実子で、デビュー当初は福太郎と名のつた。

父親譲りの風貌と声質、それに完璧な幸枝若節を継承して早くから注目を集めていた。

初代死後の二〇〇四年(平成十六)年、二代目幸枝若を引き継いだ。

その披露公演がなんばグランド花月で開かれたことで知られるように、浪曲家として唯一人の吉本興業所属である。

今回の『掛川の宿』は、「げれん浪曲」と称する笑いの多い演目で、左甚五郎シリーズの一つである。

『竹の水仙』『千人坊主』などと並んで、幸枝若得意の演目である。

他にも、『会津の小鉄』や『河内十人斬り』『寛永三馬術』などのシリーズをレパートリーとしている。

その幸枝若の弟子が、幸いってんである。

一九七四(昭和四九)年、兵庫県の生まれ、一九九九(平成十一年)にデビューした若手である。

『雷電と八角』は、幸枝若も得意とする「寛政力士伝」シリーズの一作で、相撲の楽しさを伝えてくれる。

菊地まどかは、一九七六(昭和五一)年、大阪府の生まれ。二代目小田嬢門下となって昨年一月にデビューしたばかりのホヤホヤの新人である。しかし、文化庁芸術祭新人賞、大阪舞台芸術新人賞を受賞した期待の新星だ。

『阿波の踊り子』は、二代目春野百合子から譲り受けた新作で、まどかの魅力が伝わる名作である。

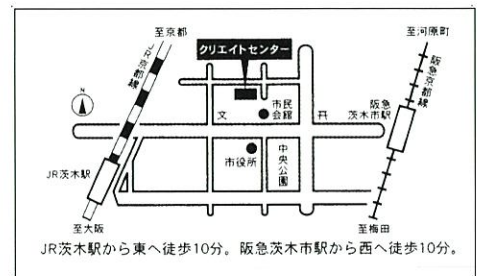
と、演者、演目とも一級の浪曲の魅力をおあなたにお届けする。

敬称略

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 8:45~17:15 無休)

- * 発売初日から電話予約もお受けしますがお席はお任せいただきます。
 - * 予約後は、1週間以内に財団窓口でご精算ください。
 - * 予約チケットの郵送をご希望の場合は、<チケット料金+郵送料 290円>を郵便局備付の「払込取扱票」で払い込みください。手数料はご負担願います。
- <振替口座>00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団
- * 窓口販売と電話予約が競合する場合は窓口販売を優先しますので予めご了承ください。



YAMAMOTO MANAGEMENT BRAIN

・TKCコンピュータ会計システム
山本 公認会計士事務所
税 理 主 事 務 所

Y.F.P (ヤマモトファイナンシャルプランナー)

公認会計士 山本晃嗣
税 理 士

〒567-0825 茨木市園田町1番5号 中西ビル PHONE 072-635-2100
e-mail : khoji-yamamoto@tkcnf.or.jp FAX 072-635-2151

本物志向の店
地酒とワインと良い食品

地酒の にしじま

株式会社 NISHIJIMA

本店: 茨木市新和町4-11
☎ 072-633-3500 FAX 072-634-5002